

一般参加型シンポジウム 「博物館と学校連携について～博物館の使い方～」の開催について

かわさき宙と緑の科学館 自然・科学担当学芸員 高中健一郎

シンポジウム開催趣旨

一般の方が博物館をイメージした際、様々なものが展示されている施設という想像をされる方が多い印象がある。実際に当館のバックヤードツアー等のイベントで、参加者に対し博物館がどのようなことをやっている施設かについて質問をすると、最初に「展示」と回答されるケースが多く、次いで一般の方が参加する教室等のイベントである「教育普及」が挙がる。

博物館の役割には、資料の収集保存、展示、調査研究、教育普及などがあり、博物館法第三条において、学校と協力し、その活動を援助することと定められているように、一般向けのイベント以外にも、小学校、中学校、高等学校等の学校団体との連携事業を行っている。著者の所属館でも地層の観察、林の観察、プラネタリウム学習投影、総合的な学習の時間支援など、学校向けのコンテンツを小・中・高等学校等の依頼に基づき実施している。神奈川県博物館協会の加盟館園においても、自然科学、人文科学等の博物館が対応している分野によって、持ち合わせている学校向けのコンテンツに違いがあり、また加盟館園が位置する市区町村の規模によって、対応する学校数に差があるなど、その事業内容には様々な要素が含まれるが、状況に合わせ、児童・生徒向けの展示解説や出前教室等、それぞれの館園で学校での学びが深まる一助となるような工夫をしながら取り組んでいる。一方で、学校の先生方の中には、学習単元に割り当てる時間数や行事などの学校の状況、従来の施設見学以外に博物館を利用したことがないなどの理由から博物館との関わり方がわからず、なかなか博物館の利用に踏み切れていないこともあるかと思う。

本シンポジウムでは、神奈川県博物館協会の加盟館園向け、学校関係者向け、一般の方向けの3方向へ博学連携の実態を伝えることを開催の趣旨とした。詳細については以下に記す。まず加盟館

園には、他館がどのような学校向けコンテンツを持ち合わせ、どのように対応しているのかについて事例を紹介することで、事例を聞いた各館園の職員が所属館で実施している学校向けコンテンツとすりあわせ、実施可能なものを取り入れる、新たなコンテンツを組立てる際のアイデアの一つとするなど、学校向けのコンテンツを考えるきっかけとする。次いで、学校関係者には、博物館と学校連携の事例から博物館をどのように利用できるのかを知らせ、今後、博物館の利用を考える際に選択肢の幅を広げる一案とする。最後に、一般の方には、博物館がどのように地域の学校と関わり、児童・生徒たちにとって自身の地域を知るなどの学びの場として利用されているといった博物館が持つ役割を知らせる機会とする。

プログラムの組立てと学校関係者への周知

シンポジウムの開催に向けて、神奈川県博物館協会合同部会の幹事で意見を出し合い、博学連携の事例紹介には自然科学、人文科学の両分野における事例を入れ込むこと、小学校、中学校、高等学校の各世代に対しての事例を入れ込むこととした。これらを念頭に、各幹事が所属する館での博学連携の取り組みや、それぞれの幹事が知り得ている加盟館園で実施されている博学連携の長年の取り組み、新たな取り組みについての情報を共有し、内容について検討を重ねた。

また、今回のシンポジウムのテーマが博学連携であることから、各館の事例紹介後のディスカッションでは、博物館側からの一方だけの議論ではなく、学校関係者側からも議論に参加していただき御意見を伺いたいと考え、現役の先生方に御登壇いただく形でプログラムを組立てた(表1)。一般参加型シンポジウムではあるが、多くの学校関係者にシンポジウムへ参加していただき、博学連携の事例を知らせる機会とするために、神奈川県博物館協会事務局から県内の学校へチラシを配

布することで、シンポジウムの開催を周知し、参加を促した。そのお陰もあり、当日は複数の学校関係者の参加がみられ、ディスカッション後の質疑応答では会場参加の学校関係者からもコメントをいただくことができ、博学連携について博物館側と学校側からの双方向から議論が生まれるシンポジウムとなった。

なお、シンポジウムで御紹介いただいた博学連携の具体的な実施内容や先生方からの所感については、本誌にて御登壇いただいた皆様から寄稿さ

れた報告やシンポジウム参加者からの参加記が別報にあるため、そちらを参照されたい。

末筆ながら本シンポジウムにて御登壇いただいた刈田均氏（横浜市歴史博物館）、土屋健作氏（小田原市郷土文化館）、秋山幸也氏（相模原市立博物館）、内船俊樹氏（横須賀市自然・人文博物館）、風間洋氏（鎌倉学園中学・高等学校）、山田恵里氏（小田原市立早川小学校）の皆様には、ここに厚く御礼申し上げます。

表1. 令和6年度第5回研修会（公開シンポジウム）の開催要項

日時	令和7（2025）年2月8日（土）13：00～16：35	
会場	横浜市歴史博物館・講堂	
趣旨	博物館では、小・中・高等学校等の学校団体との博学連携事業を行っており、自然科学、人文科学等の博物館の各分野において、学校での学びが深まる一助となるよう児童・生徒向けの展示解説や出前教室など、様々な内容を取組んでいます。一方で、先生方の中には、学習単元や行事など学校の状況によって、博物館利用に踏み切れていないこともあろうかと思えます。本シンポジウムは、一般の方や先生方に博物館と学校との関わりについて知っていただく機会とし、今後の博物館利用を考えるきっかけとなるよう、各館で実施されている長年の取組みや、新たな取組みの事例を紹介いたします。	
プログラム		
12:30～13:00	受付	
13:00～13:05	開会挨拶	刈田 均 (横浜市歴史博物館 副館長)
13:05～13:10	趣旨説明	高中健一郎 (かわさき宙と緑の科学館 学芸員)
13:10～13:40	事例紹介① 様々な学校連携活動 横浜市歴史博物館の事例から	刈田 均 (横浜市歴史博物館 副館長)
13:40～14:10	事例紹介② 学校収蔵資料を用いた企画展の開催と今後の展望	土屋健作 (小田原市郷土文化館 学芸員)
14:10～14:20	質疑応答	
14:20～14:30	休憩	
14:30～15:00	事例紹介③ 高校と博物館の連携 部活へ首を突っ込もう！	秋山幸也 (相模原市立博物館 学芸員)
15:00～15:30	事例紹介④ 市教委等既存事業を組み入れた新しい博物館イベント《みんなの理科フェスティバル》の経緯と現状	内船俊樹 (横須賀市自然・人文博物館 学芸員)
15:30～15:40	質疑応答	
15:40～15:50	休憩	
15:50～16:00	コメント	風間 洋 (鎌倉学園中学・高等学校 教諭)
		山田恵里 (小田原市立早川小学校 教諭)
16:00～16:30	ディスカッション	
16:30～16:35	閉会挨拶	望月一樹 (神奈川県博物館協会 会長)
17:20～	(閉会后移動) 情報交換会	